

ふるさと御嵩と共に生き・高まる学校 学ぶ喜び・豊かな心・健やかな体

御嵩小校報

平成26年度

第30号

10月

1日

学校の教育目標
のびよう きたえよう
せいりっぱい

- ・みんなで学ぶ子
- ・たすけあう子
- ・けんこうな子

前期 学校評価の結果及び公開について

7月に、教職員・保護者・児童に対し、一斉に評価を実施しました。ご協力ありがとうございました。それをまとめて、教職員で成果と課題を明確にしました。9月のPTA本部役員会でも、お伝えしました。さらに、9月26日(金)に学校評議員会(学校関係者評価委員会)を開催しましたので、学校だより、ホームページ等で前期の自己評価書を公開させていただきます。

平成26年度 前期 御嵩町立御嵩小学校 自己評価書

達成度の◎:90以上○:80以上△:75未満 空欄:75~80 ↑昨年より2ポイント以上上昇 ↓2ポイント以下下降

$$(達成度)\% = \frac{4 \times \text{人数} + 3 \times \text{人数} + 2 \times \text{人数} + 1 \times \text{人数}}{4 \times \text{総数}} \times 100$$

昨年の達成度は、平成25年度前期(7月)に実施したものです。

★御嵩小学校の教育についての評価アンケートに係る意見等に対しては、学校としての回答をきちんと述べたいと思います。12月に行う参観日の学級・学年懇談会等で、該当学年・学級で説明させていただきます。

項目	評価指標		達成度				
			昨年	前期	比		
教育課程	1	ふるさと学習	教職員	学校や御嵩の特色を生かした創意あるふるさと学習に取り組んでいる。	87.5○	90.5◎	↑
			保護者	御嵩のよさを生かした生活科や総合学習等に取り組んでいる。	82.7○	83.6○	
			児童	みたけについての学習は、たのしく取り組んでいます。	87.6○	89.6○	↑
学習指導	2	きめ細かな指導	教職員	主体的に学ぶよう一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導をしている。	83.9○	85.1○	
			保護者	一人一人を大切にされたきめ細かな指導をしている。	78.5	77.2	
			児童	自分のペースに合わせて学習しています。	87.5○	88.5○	
学習指導	3	反復練習	教職員	読み、書き、計算することなどの繰り返し学習を大切に指導している。	86.6○	88.5○	
			保護者	読み、書き、計算することなどの繰り返し学習を大切にしている。	81.0○	82.5○	
			児童	計算や漢字、音読などをくりかえして学習しています。	82.8○	85.0○	↑
学習指導	4	学び方	教職員	基本的な学習姿勢や学び方が身に付くよう意図的に指導している。	87.5○	87.2○	
			保護者	基本的な学習姿勢や話し方・聞き方の指導をしている。	80.0○	79.3	
			児童	話す人に体をむけて聞いたり、目を見て話したりしています。	83.1○	83.8○	

【考察】学習づくり委員会

全体に昨年度より高い評価となっている。学校の特色を生かした「ふるさと学習」では、地域の環境、地域の人材(教育力)を生かした実践を、各学年ごとに、精力的に実施することができた。児童の学びも充実している。「きめ細かな指導」に対する保護者の評価が、昨年度より低くなっている。保護者は、単元末の評価問題の得点を、わが子の学習定着度を測る基準に考えていると思われる。児童の自分の学習のペースを大切に取組や、基礎学力の定着への反復練習への努力は高い。授業での学び方『聞く・話す・姿勢』も保護者の評価はやや低い、参観授業等の児童の姿から判断している場合もある。今後、保護者の理解に向けての取組が必要なる。

【改善策】

- ・保護者のわが子に対する学校の「きめ細かな指導」の評価の向上に向けて、参観授業での個への支援(声かけや活動への働きかけ)の様子を見ていただくようにする。また、単元末テストの返却に際し、担任が間違いを更にていねいに教え、一人一人が正しく直すよう指導する。
- ・授業への興味・関心と集中力を高める指導工夫を第一にする。「聞く・話す」力は、低学年で基本を定着させ切ることと、3年生からの発展的継続指導によって、自らの考えや思いをよりよく伝える、聞き取り理解する力を定着させることを課題として学年ごとに取り組む。
- ・一人一人に学ぶ喜びが感じられる授業をこれからも追究する。個に応じた指導、練習で習熟を図る時間の確保、学び方の意味の指導に力を入れていく。

項目		評価指標		達成度			
				昨年	前期	比	
生徒指導	5	自己存在感	教職員	子どもの声に耳を傾け、一人一人のよさを認める指導をしている。	89.3〇	86.5〇	↓
			保護者	子どもの声に耳を傾け、一人一人のよさを大切にしている。	75.5	77.3	↑
			児童	自分の思いを先生に進んでお話しします。	76.4	78.7〇	↑
	6	いじめ・差別	教職員	問題行動などに対して、全校体制で適切な指導を行っている。	87.5〇	87.8〇	
			保護者	いじめや差別のない温かい学級・学校づくりに取り組んでいる。	78.5	78.9	
			児童	いじめたりいじめられたりしないで、仲良く学校に通っています。	83.9〇	86.0〇	↑
	7	言葉遣い・挨拶	教職員	よい言葉遣いや気持ちのよい挨拶が身に付くよう指導している。	86.6〇	83.1〇	↓
			保護者	よい言葉遣いや気持ちのよい挨拶が身に付くよう指導している。	78.6	78.6	
			児童	いつでもだれにでも、気持ちのよいあいさつをしています。	83.5〇	83.2〇	

【考察】生活づくり委員会

言葉遣いについては、全体的に下降気味である。教職員では「自己存在感」と「言葉遣い・挨拶」の2項目が去年より若干下がり、「いじめ・差別」については微増である。個別な問題には、精一杯指導に当たっている反面、全体への指導の手薄さを感じているともいえる。どの項目でも、保護者がやや低くなっている。Bが多く、Dは少ないものの他よりCが多くなっており、なかなか学校の指導の様子が見えていないようである。そういった中、1年生の保護者はAが多く、毎週の通信や、連絡帳などで、十分に学校の様子が伝わっているようである。児童については、自己存在感がやや低いものの、昨年よりは上昇している。1年生はAが大変多く、安心して教師と話していることがうかがえる。高学年では、Aが3割以下になり、CやDが4分の1ほど見られる。高学年ほど、話せない部分が出てくることを配慮して指導に当たりたい。いじめに関しては、昨年より上昇し、9割近い達成度になっている。2年生以外の学年で、6～7割がAと答えているのは、うれしいことである。

【改善策】

言葉遣いについては、学校生活以外でも考える問題である。家庭を巻き込んだ取組にしたい。2学期の「ひびきあいの日」の取組とも絡めて、「ふわふわ言葉」の意識を高め、言葉遣いについて考えさせるようにしていきたい。あいさつ運動では、中学生に挨拶しない姿も見られたので、相手を意識させるような取組を工夫する。また、きちんと挨拶ができる児童や通学班を、紹介し、価値付けていくようにする。

項目		評価指標		達成度			
				昨年	前期	比	
進路指導	8	キャリア教育	教職員	勤労生産学習や当番・委員会活動等で働くことの大切さを指導している。	83.0〇	82.4〇	
			保護者	栽培活動や当番・委員会等で、働くことの大切さを指導している。	81.9〇	84.0〇	↑
			児童	野菜や菊づくり、動物の世話など一生懸命取り組んでいます。	87.2〇	89.2〇	↑
	9	夢と希望	教職員	一人一人が将来の夢や希望をもって生活できるよう指導している。	79.5〇	79.7〇	
			保護者	希望をもち、めあてをもって精一杯努力するよう指導している。	79.2	79.5〇	
			児童	自分もあのようになりたいと、めあてをもって生活しています。	85.9〇	88.8〇	↑

【考察】仲間づくり委員会

昨年度と比較すると、若干達成度が向上している。勤労生産的な活動や飼育栽培活動についての保護者、児童の評価が高くなっている。活動の意義を通して児童が主体的に取り組んでいると捉える。また、そうした児童の活動を保護者が知っており、その様子を学校便りや学年・学級で継続的に発信して伝えている効果が現れていると考えられる。「夢と希望…」については、児童の意識が高い。保護者には、その趣旨が十分伝わっていないとも考えられる。

【改善策】

- ・自分の役割に対する自覚と責任を果たすことによって、自己存在感・有用感を体感させたい。
- ・将来にわたっての長いスパンではなく、一年ごとに、各学年内で達成させる成就感を味わわせたい。
- ・PDCAのサイクルを児童の学校生活の中に位置付けていく。
- ・新しい自分になりたい、自分をよりよく変容させたいという確かな願いをもたせること、各学期初めの指導と学期・学年末の自己達成評価をさせること、日々児童の努力に目を向け、適宜認め励ます支援をすることが大切である。

項目		評価指標		達成度			
				昨年	前期	比	
安全管理	10	安全な登下校	教職員	登下校時の子どもの安全や事故防止に努めている。	91.1◎	90.5◎	
			保護者	交通指導や不審者対応等、安全に登下校できるように指導している。	80.9〇	81.9〇	
			児童	安全に気をつけて登下校をしています。	91.1◎	92.4◎	
	11	危機管理	教職員	命を守る訓練が実施され災害時等の対応策が子どもや保護者に示されている。	92.0◎	89.2〇	↓
			保護者	命を守る訓練(避難訓練や防犯訓練等)を行い、非常時に備えた訓練や対策を講じている。	82.5〇	82.3〇	
			児童	災害にそなえ、命を守るくんれんなどを真剣に取り組んでいます。	93.6◎	96.3◎	↑
	12	安全点検	教職員	施設や設備の安全点検を徹底し安全で有効に活用できるようにしている。	83.9〇	83.8〇	
			保護者	施設や設備の安全に気をつけ、有効に活用できるようにしている。	80.5〇	80.6〇	
			児童	ブランコやロケット遊具など、安全に気をつけて遊んでいます。	91.4◎	93.3◎	

【考察】健康づくり委員会

どの項目も 概ね昨年度と同様の達成率である。特出すべきは、「11危機管理」の児童の達成率の高さである。それに反して、教職員のどの項目の達成率は、減少している。命を守る訓練の内容を再検討して、より実際に即したものに改善していくことや、改善した点について保護者に示していくことが課題と言える。

安全な登下校については、保護者アンケートでも多くの意見をいただいた。今後もPTAや地域と連携した活動の継続と協力や理解を得ていくための方法が必要と言える。

【改善策】

下校の仕方を改善していくためには、保護者の協力が不可欠である。PTA地区委員会との連携をさらに強化していくとよい。その他にも、保護者の協力を得る方法を考えていく。

安全点検は、故障、破損箇所点検ではない。安全点検で出された箇所をどのように改善したかを担当者が明らかにしていくとよい。また、現在は点検箇所を固定しているが、「様々な目で見ると」という点から言えば、点検箇所をローテーションさせるとよい。

項目			評価指標	達成度			
				昨年	前期	比	
保健管理	13	体力向上	教職員	運動に取り組み、体力の維持、向上に取り組むように指導援助している。	84.8〇	83.8〇	
			保護者	健康増進、体力向上のために、運動に親しむように指導している。	78.3	80.8〇	↑
			児童	うんどうがすきで、外で元気にあそんでいます。	81.6〇	85.3〇	↑
	14	食育	教職員	朝ごはんや給食の指導など「食に関する指導」を大切にしている。	87.5〇	85.1〇	↓
			保護者	栄養指導や給食指導等により、食生活を見直すよう指導している。	82.3〇	84.3〇	↑
			児童	給食はすききらいをしないで、何でも食べています。	78.9	79.6〇	
	15	生活改善	教職員	生活改善をはたらきかけ、基本的な生活習慣の確立をめざしている。	82.1〇	83.8〇	
			保護者	早寝早起き朝ごはん運動等により、生活リズムを正すようにしている。	79.9	83.2〇	↑
			児童	はやね、はやおき、朝ごはんをがんばっています。	79.4	83.8〇	↑

【考察】健康づくり委員会

どの項目も、8割程度の達成率で、かなりよくできているが、さらに充実していけるとよい。教職員・保護者・児童ともにほぼ同レベルであることから、学校の取り組みが、各家庭にも伝わっているようである。細かく見ると、1年生ではAが多いが、他学年ではBが多くなっている。児童については、「体力向上」と「生活改善」で、1～4年生でAが多いのに対し、5・6年生ではBへシフトしていく。高学年になるほど、忙しくなって外で遊べないという現状や、夜型の生活への移行が感じられる。「食育」については、どの学年でもAがやや少なくなっている。これは、好き嫌いをなくせない子ども達の正直な気持ちの表れと思われる。

【改善策】

食育で、好き嫌いをしないという児童の評価がやや低いが、成長とともに残量が減り、食べられるようになっていくので、嫌いなものががんばって食べるように、「残さない」指導を段階的に進めていく必要がある。保護者の評価は、職員の意識とは大きく変わっていないので、今後も校報や通信などで、伝えていくことを大切にしていきたい。

項目			評価指標	達成度			
				昨年	前期	比	
組織運営	16	教育目標・自己評価	教職員	校長、教頭、主任等がリーダー性を発揮し、経営方針の具現に努めている。	90.7◎	89.2〇	
			保護者	教育目標や方針・自己評価等の内容を明確にして学校づくりを進めている。	80.3〇	80.7〇	
			児童	学年目標や学級目標をめざして生活しています。	87.2〇	90.0◎	↑
	17	運営組織・協力体制	教職員	教職員は、協力して子どもの指導にあたっている。	94.4◎	89.2〇	↓
			保護者	教職員は、協力して子どもの指導にあたっている。	81.4〇	81.4〇	
			児童	多くの先生から、いろいろとおしえていただいています。	88.7〇	90.9◎	↑

【考察】学校評価委員会

教育目標・自己評価については、教職員の評価は高く、学校長の明確な経営方針のもと、指導に当たることができた。運営組織・協力体制については、教職員の「協力して子どもの指導に当たっている」という項目が、大きく下がっており、その原因を探るとともに、2学期に生かしていく必要がある。保護者の評価については、昨年度とほぼ同様である。子どもの意識が高くなり、90ポイントを越えてきている点は、大きな成果であると考えられる。

【改善策】

教職員の評価については、「協力して子どもの指導に当たる」ということを、2学期は特に意識的に取り組み、様々なトラブルや子どもの支援に組織で対応する（担任任せにしない）ことが大切であると考えられる。担任だけでなく、より多くの職員が積極的に声をかけ、関わり、リレーションを高めることによって、子どものやる気を引き出していきたい。保護者については、更に理解していただけるよう、学校の取組や評価の積極的な公表（校報・HP・懇談会・行事等）、行事や下校指導など、全職員が協力して取り組んでいる姿を見せていくことが重要である。

項目			評価指標	達成度			
				昨年	前期	比	
研修	18	自己研鑽・資質向上	教職員	教職員は、日ごろから指導力の向上に努めている。	85.7〇	87.2〇	
			保護者	教職員は、日ごろから指導力の向上に努めている。	80.9〇	82.0〇	
			児童	先生の授業は、たのしくて、よくわかります。	86.7〇	89.9◎	↑

19	主題 研究	教職員	主題研究に対して、組織的・意欲的に取り組んでいる。	86.1〇	85.1〇	
		保護者	算数などの学習は、基礎的・基本的な内容を定着させるよう努めている。	79.6	81.9〇	↑
		児童	算数などの学習は、好きです。	75.8	81.0〇	↑

【考察】研究推進委員会

自己研鑽、資質向上に向けた個々の取り組み、職員研修を通して充実している。積極的に研修会への参加も今年度は多く教職員の意欲的な研修で得た知識、技能を授業や活動に生かしていると捉える。主題研究では、新しい研究への意欲も高まりつつ、昨年度より向上している、しかし、「D」評価もあり、年度当初に具体的な研究内容・方法が提示できず、各学年研究部会での研究が滞った期間があったことが原因であると捉える。未だ、今年度、次年度の研究によって、児童の何を育てるのか、それはどのような方法で実現するのか、担任が実践すべき指導内容は何かといったことが理解されないままの職員があると考えられる。

【改善策】

- ・職員の研修に対する意識は高い。子どもの力となる研修になるよう、これからも努力したい。
- ・「授業が楽しい」「算数などの学習は好き」とする児童が増えてきていることは、日々の教材研究、指導方法の工夫改善の成果であり、時間が許す限り励みたい。
- ・新しい主題研究は、一学期が構想段階にあり判然とした計画的実践が難しかったが、児童の学力の結果分析に基づき、後期よりとそのための実践内容をさらに明確にして、教職員一丸となって主題研究に取り組んでいきたい。

項目		評価指標		達成度			
				昨年	前期	比	
連 携	20	郷土愛・奉仕	教職員	地域の行事・ボランティア活動等に参加するよう指導している。	80.4〇	80.4〇	
		保護者	地域の行事・ボランティア活動等に積極的に参加・協力している。	76.9	79.7〇	↑	
		児童	みたけの行事やボランティア活動によく行きます。	73.6▲	77.4	↑	
	21	情報の発信	教職員	教育方針、児童の様子など、保護者や地域にわかりやすく伝えている。	83.9〇	86.5〇	↑
			保護者	学校・学級通信や懇談会等で、学校や児童の様子を説明・報告している。	84.1〇	83.1〇	
			児童	学校・学年通信など、かならずお家の人にわたしています。	88.9〇	90.3◎	
	22	情報収集	教職員	保護者の悩みや相談に対応し、地域の方々の声に耳を傾けている。	85.7〇	87.2〇	
			保護者	懇談会やアンケート等で、保護者や地域の方々の声を聞こうと努めている。	80.8〇	82.8〇	↑
			児童	さんかんびなど、たくさんの方がよく見にきてくれます。	88.0〇	89.1〇	
	23	保小中の連携	教職員	保育園、幼稚園、小学校、中学校が連携して取り組んでいる。	83.0〇	88.5〇	↑
			保護者	保育園、幼稚園、小学校、中学校が連携して取り組んでいる。	80.3〇	82.2〇	
			児童	保育園児や中学生とのふれあいをたいせつにしています。	81.2〇	83.1〇	

【考察】学習づくり委員会

どの項目も、昨年と同様、または上昇しているものがほとんどである。保小中の連携は、職員の評価が5ポイント以上上昇しており、1学期に行った2度の全校研など、授業を通した小中連携（教科部会）が、教職員の意識の向上につながっていると考える。学力向上徹底プランの成果の一つととらえたい。また、「保護者や地域の声を聞こうと努めている」という保護者の評価が、2ポイント上昇している点については、今後も継続できるよう、大切にしたい。教職員が上昇している反面、保護者の評価が下がっている情報発信については、学級通信の発行や学級懇談会の持ち方などへの保護者の期待があるものと思われる。ボランティアへの参加意識は、保護者・児童とも上昇しており、ぜひ継続したい。

【改善策】

幼保小中の連携は、後期も大切に、それぞれ来年度新1年生へのスムーズなつながりを意識して、情報交流を密にしていく。また、意識が高まっているボランティアへの参加についても、引き続き呼びかけ、高学年を中心に、地域の活動に積極的に貢献できる子どもたちを増やしていく。

項目		評価指標		達成度			
				昨年	前期	比	
施設 設備	24	施設設備の活用	教職員	施設・設備を活用し、教育の効果を上げている。	75.9	80.4〇	↑
		保護者	チャレンジ教室の活用など、施設・設備・環境を、教育活動に役立てている。	81.0〇	82.1〇		
		児童	いろいろな教室や道具をつかって、たのしく学習しています。	88.8〇	90.1◎		
	25	施設設備の整備	教職員	校舎内や校舎周辺の整理整頓に心がけ、教育環境を整備している。	77.7	82.4〇	↑
			保護者	校舎内や校舎周辺の整理整頓に心がけ、教育環境を整備している。	79.8〇	81.7〇	
			児童	きれいな学校にするために、しゃべらずにそうじをしています。	80.2〇	80.8〇	

【考察】学校評価委員会

施設設備の活用・整備とも、教職員の評価が大きく上昇している。昨年度は、「不十分である」と考える職員が多く、今年度大きく改善した項目である。来客者や保護者の方々からも、学校が美しいとの感想をいただくことが多かった。

【改善策】

- ・2学期も継続して力を入れ、「美しい教育環境が、子どもの学力を高め、学校の落ち着きにつながる」という意識で、それぞれの立場で常に気を配り、手を動かしていくようにしたい。自分にできることを、担当者に任せるのではなく、工夫改善していく職員集団であるよう、働きかけていく。
- ・掃除については委員会等が中心となって美化週間を工夫したり、努力している学級を価値づけたりしながら環境整備の意識を更に高めていくようにする。